

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473200978	事業の開始年月日	平成16年7月1日
		指定年月日	平成16年7月1日
法人名	医療法人社団 東華会		
事業所名	サリューブルあさひ式番館		
所在地	(241-0832) 横浜市旭区桐が作 1804-16		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護		登録定員 25 名
			通い定員 名
	☒ 認知症対応型共同生活介護		宿泊定員 名
			定員 計 18 名
		ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	平成23年1月18日	評価結果 市町村受理日	平成23年4月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の場であるグループホームとして、入居されている方たちに安心して生活して頂けるよう職員が支援しています。支援としては当グループホームが自宅と同じリズムで日常生活が送れるように、個別対応を日々心がけています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年2月8日	評価機関 評価決定日	平成23年4月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

＜事業所の優れている点＞ 身体拘束ゼロに向けての取り組み ・「身体拘束ゼロ」のポスターを玄関やリビングに掲示し、職員はいつもそのことを意識しサービス提供に努めている。また、玄関は安全面を考慮し重複開閉時にはチャイムが鳴るように工夫して、日中は施錠していない。 ◇運営理念「ゆっくり、のんびり、にこやかに。」の実践 ・運営理念は朝礼や会議で確認し、職員はサービス提供時に理念の具現化に努めている。運営理念の【にこやかに】を特に重要視し、職員は笑顔を絶やさず、利用者に接している。 ◇市町村との連携 ・運営推進会議には旭区役所の高齢・障害支援課の職員が出席し意見交換を行っている。また、ケースワーカーや介護保険課の職員なども来訪し、事業所の実情を理解し協力関係が深められている。 ＜事業所が工夫している点＞ ◇食事を楽しく工夫 ・利用者の希望の献立を前日、または当日確認しそれに沿って食材を買いに行き対応している。事業所内の利用者と職員が共同で作ったほうれん草、トマト、ピーマンなどを食材として使用して喜ばれている。また、外出の際に料理店での外食も行っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	サリューブルあさひ式番館
ユニット名	1F ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

サリユーブルあさひ式番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき日常的に実践している	・運営理念「ゆっくり、のんびり、にこやかに」は開設当初からのものであり、職員は朝礼や会議で確認している。 ・運営理念は玄関及び1階、2階の事務所に掲示し、訪問者の目にとまるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、ホーム内のイベントに地域の方が参加されている	・自治会や桐寿会（老人会）に入会して、地元の行事や盆おどり、夏祭りなどに参加して地域住民との交流を深めている。 ・キーボードやハーモニカ演奏の地域ボランティアが定期的に訪れ、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩、買物等を通して交流を図ったり、運営推進会議にて利用者の日常生活の理解をいただいている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域とのかかわり（火災時、防災時）を継続的に取り組んでいる、区役所から高齢者支援・ケアプラザから包括支援の担当者がオブザーバーで参加し評価して頂いている	・運営推進会議は2ヶ月ごとに行われ、利用者、利用者の家族、自治会役員、旭区役所の職員、万騎が原地域包括支援センターの職員が出席し意見交換を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者が参加されているので、そのつど日常生活を見て頂き、助言や必要とするサービスの提供を受けています	・運営推進会議に旭区の職員が出席し、事業所の実情を見てもらい、助言をいただいたり、行政との協力関係を構築している。 ・2か月に1回区役所のケースワーカーが来訪し、利用者の話相手にもなっている。	

サリユーブルあさひ式番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」をホーム内に掲げ、研修に参加するなど全員で取り組んでいる、玄関の施錠に関しては、就寝時間帯以外は開錠している	・「身体拘束ゼロ」のポスターを玄関やリビングの見やすいところに掲示し、職員は研修に出席し、それらを事業所内の勉強会で話し合っている。 ・玄関は夜間を除き、施錠していない。防犯面、安全面を考慮し、玄関の開閉時にはチャイムが鳴り職員が気がつくようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体会議（内部研修）や外部研修に参加し、虐待が起こればよう職員間で注意しあう体制が取れている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修に参加したり、生活保護の申請についてご家族から相談を受け、区役所の保護課との連携を取っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書を見ながら口頭で説明している、疑問点に関してはそのつど理解を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に「ご意見箱」を設置している、利用者・ご家族からの要望はユニット会議で報告したり、ケアプランに反映し取り組んでいる	・運営推進会議や家族の来訪時、行事後の懇談会などで意見・要望を聞くようにしたり、玄関先に意見箱を用意するなど意見・要望の吸収に努めている。 ・出された意見・要望は事業運営に反映するように努めている。	

サリユーブルあさひ式番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に提案や業務の見直し等を受入れ、諸会議（ユニット・運営・職員全体）で検討し改善している	・毎月行っている全体会議、運営会議、ユニット会議で職員に意見を聞いたり、年2回行っている管理者と職員との個別面談で職員の意見・要望を聞き、出された意見・要望は事業運営に反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査を行い「評価シート」にて日頃の勤務状況や本人の意向を理解できるよう勤めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は「基礎研修」、「介護道場：実技・講義」、「職員交流会」、「2ヶ月に1度、職員全体会議において認知症、身体拘束、虐待、介護実技、接遇等」		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	「横浜市グループホーム連絡会」、「旭・瀬谷グループホーム連絡会」、「旭区認知症家族の会」等に参加し取り組んでいる		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居1ヶ月間は、利用者ご家族から「どのような生活が希望か」を伺い、観察しながら本人らしさを提供している		

サリユーブルあさひ式番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族会の中で要望や意見を伺ったり、ケアカンファレンスにご家族も参加頂く等、職員が「生の声」を聴き話し合っている、		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具の導入、居室環境の整備も職員が利用者やご家族と話し合い取り組んでいる		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは認知症高齢者のみの共同生活ではなく、職員が常に関わる事で共同生活が成立することを前提とした共有認識をしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族は常に連携を取り、利用者を共に支援している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブに行く範囲であれば生まれ育った地域に行ったり、その地域の方といつまでも関わられるよう支援している	・利用者の意向を汲み取って、ドライブの折りに、馴染みの場所へ行くなど配慮している。 ・利用者の友人宛の手紙を代筆したり、投函のお手伝いもしている。	

サリユーブルあさひ式番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝食後に行う体操は全員が参加している、ハーモニカやキーボード・カラオケには2ユニット全ての利用者が交流している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者の自宅に訪問したり、入所施設や病院に面会に行くなど可能な限り対応している		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いを職員が確認すると、ケアプランに反映した中で利用者本人の意向に沿うよう努めている、	・職員は利用者と日々の生活の中で入浴、散歩、ぬり絵の時などに、利用者の思いや意向を汲み取り、ケア会議などで職員間で話し合っている。 ・意思疎通が困難な利用者には、日々の行動や仕草から思いや意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者本人やご家族から出来る限り情報（家族状況、生活歴、学歴、職歴、病歴）を頂いている、		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	新たに入居された1ヶ月間で、その方らしい生活の希望や「出来ること・出来ないこと」を観察している		

サリユーブルあさひ式番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は利用者の課題を確認すると、ケアマネジャーに報告しご家族を交えてのカンファレンスを開催する、ご家族は入居前の生活ぶりを、職員は現在の生活ぶりを相互に確認しケアプランとしている	・毎月のケア会議には関係職員全員が参加している。 ・モニタリングは短期目標を3カ月ごと長期目標は6ヶ月ごとに話し合い、それをベースに介護計画を作成し、利用者の状況に応じ、適宜見直しを行っている。また、介護計画は家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は「ケア記録」に記載し、ご家族からの情報や医療機関報告は「入居者情報」に記載して、職員・ご家族で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	東華会の全事業所合同で年に5回入居者交流会を開催し、交流している。介護保険更新手続きには利用者本人に手続きに行ってもらっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の単独散歩時には地域の方の見守り（挨拶・声かけ）を頂いている。地域住民がハーモニカや歌でのボランティアに訪問している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	平成20年からかかりつけ医への受診から月2回の往診に契約を変更し、日常生活全般を確認して頂いている	・かかりつけ医の通院は原則、家族が同行している。 ・入居の段階でほとんどの利用者がかかりつけ医から事業所の協力医に切り替えている。	

サリユーブルあさひ式番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護時に日常生活状況を報告している、特変があればその都度電話にて報告し、必要があれば主治医との連携を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医（往診医）から後方病院を紹介してもらう中、入退院が速やかに行える体制を築きつつある。不要な長期入院とならぬよう連携している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針に対する同意書を説明した中で交わし、地域包括支援や高齢者支援とも連携を取っている	・重度化や終末期の対応については、契約段階で文書「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し了解を得ている。 ・重度化、終末期の実施例は1件だが、文書に基づき家族、職員、医療機関が連携し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所の出入り口に「緊急時マニュアル」を置き、即座に確認し報告出来るようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災避難訓練と心肺蘇生訓練、AEDの取り扱いについての訓練を近隣消防署から受けている	・年2回定期的に避難訓練を行っている。訓練には夜間を想定した訓練も含まれている。また、地域住民の参加も得て避難訓練を行っている。 ・備蓄は主として飲料水3日分、食料（主として冷凍食品と缶詰等）が7日分用意されている。	

サリユーブルあさひ式番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に受容できる声かけを実践している	・一人ひとりの生活習慣やリズムを大切に、自己決定権を尊重するようにしている。人格の尊重についての研修を受け、ユニット会議・全体会議・毎朝のミーティングで、ことある毎に話している。 ・個人情報については、守秘義務と管理を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプランに掲載されていない要望・希望はその都度チームで話し合い対処している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時も本人の意思確認をしてからバイタルチェックをしている、外出や買物も同じく本人の自己決定を優先している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝 更衣交換時に本人に確認し着替えている、2ヶ月に1度訪問理美容のサービスを受けている			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は全て献立表を作成せずに、利用者の希望を確認してから買物をしている、食事の準備や下膳・片付けも共に行っている	・利用者のその日の希望をもとに献立を考えている。利用者の要望により作った菜園の野菜を使うこともある。 ・行事食にも力を入れ、手作りのおせちや、ボランティアのシェフによるギョーザやケーキパーティも開催している。		

サリユーブルあさひ式番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食に対しては自立しているので、オヤツ時や食事中には水分摂取の確認をしている、尚、年に2回管理栄養士より栄養バランスや調理方法のアドバイスを受けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを実施したり、口腔ケアを依頼している、夜間は歯磨きと義歯の利用者はポリデントでの衛生管理を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を基にパターンや量を記入している、水分量チェックも合わせて声かけを行っている	・排泄チェック表や水分摂取量を記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握するようにしている。 ・失敗しても本人が傷つかないように配慮し、夜間や外出時にはリハビリパンツにして活動範囲が狭まらないよう支援している。	・職員皆様の引き続きのご努力で、利用者の排泄自立化が例え一人でも成功することを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動を促したり、食事の副食を検討したり、水分チェックをするなど弁日対策を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者から周3回の入浴希望日時を聞き入浴予定表を作っています、入浴前に本人の意思とバイタルチェックを行っています	・基本的に週3回の入浴となっているが、汚れた時は随時入浴するようにしている。 ・菖蒲湯やゆず湯、温泉の入浴剤を入れたり、気の合う職員が介助するようにするなど、楽しめるように配慮している。	

サリユーブルあさひ式番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安が募り眠れぬ日々を送る利用者もいます、主治医と連携を取り、処方薬の見直しや日中の過ごし方の助言を受け中居室やリビングで生活しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は説明書を事務所の棚に取り出しやすいように置いてあり、薬の内容が変わる都度業務連絡帳に内容を明記し職員に確認したら押印することになっています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室や仏壇に花を生ける、庭の花を取り食卓に飾る、家庭菜園で野菜を育て食したり、カラオケ、キーボード・ハーモニカで歌を唄い楽しませている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と共に散歩や買物に出れる利用者は声かけて外出し、歩行困難者や徘徊する方は玄関脇のベンチで日向ぼっこをしています	・お花見、江ノ島や横浜港などに全員でドライブに行き、外食を楽しんでいる。 ・1人や、2、3人でも職員がついて買い物や外食に行っている。歩行困難な利用者は、ベンチで外気浴をするようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時は職員が利用者の個人金を持ち同行している、希望の買物が出来るよう支援している		

サリユーブルあさひ式番館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がご家族やご友人に連絡したいと依頼があれば、事務所の電話で済ませている、手紙を依頼されることは稀だが代筆等行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや時計、利用者の写真をあらゆる所に飾ったり、カーテンの色も利用者の意向、居室・リビング・トイレ・浴室全て風通しが出来ている	・窓が広いので明るく、浴室も風通しが良い。エアコン、加湿器も使って温度湿度を管理している。 ・リビングの壁や天井には、利用者と職員で一緒に作ったカレンダーや職員手作りの飾りを飾って、暖かみを感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でテレビを見たり、居眠りしたり、友達と話したり、ゲームをしたりしている、		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品としてはクローゼットとエアコンのみで、その他の必要家具等は利用者の馴染みの物を配置されている	・居室は、本人の好みにより、家具やテレビなどを入れている。壁には、職員手作りの色紙や写真などが貼ってある。 ・和室は1階2階合わせて4室あり、本人の希望により洋室に畳を置いている部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム内はバリアフリーであり、安全に生活している、居室には表札、トイレにも利用者の作った札を掛け工夫している		

目 標 達 成 計 画

事業所名

サリューブルあさひ式番館

作成日

平成23年4月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	近隣住民に対するプチデイサービスの検討	近隣住民で要介護者を抱える家族の方に、式番館に2～3時間のプチデイサービスをボランティアとして行いたい。	平成23年2月より、近隣住民にプチデイサービスの案内を出しています。僅かな時間ですが家族にリフレッシュして頂ける様連携を取って行きます。	3か月
2	13	近隣自治会より、災害時の福祉避難所に指定したいとの申し出があった。	3月11日に起こった大地震に対する備えと思いますが、当施設は小規模ながらも自立した要介護者であれば少人数の受け入れを検討したいと考えます。	近隣住民にホームを再度見学して頂き施設の規模、入居者状況、日中の職員数等々確認して頂き、避難所として食事・入浴・排泄の調達がどこまで対処するか検討していきたい。	6ヵ月
3					
4					
5					